

生活科学習指導案

2年1組 31名 指導者 木場 幸乃

本授業は、以下の検証を行うものである。
体験活動と表現活動を繰り返し、導入・展開・終末のそれぞれの過程で振り返りの活動を設定することは、生活科における「主体的に学習に取り組む態度」に着目した授業改善の手立てとして有効であったか。

1 単元 ぐんぐんそだて わたしのやさい

2 目標

夏野菜を育てる活動を通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって世話の仕方を工夫し、野菜も自分たちと同じように生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、野菜の成長を楽しみにしながら大切にしようとするようにすることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 夏野菜を育てる活動を通して、自分の野菜に合った世話の仕方があることや、生命をもち成長していることに気付いている。○ 夏野菜の様子や特徴に合わせた適切な世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。	<ul style="list-style-type: none">○ 夏野菜を育てる活動を通して、自分の野菜の変化や成長の様子に関心をもって世話を工夫している。○ 夏野菜の変化や成長の様子や世話をし、気付いたこと、自分自身の成長を表現している。	<ul style="list-style-type: none">○ 夏野菜を育てる活動を通して、自分の野菜への思いや願いをもち、繰り返し関わろうとしている。○ 夏野菜の様子に合わせて関わりや世話をし、自分の野菜を大切に育てようとしている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本単元は、内容(7)「動植物の飼育・栽培」を受けて構成されている。単元の構成に当たっては、夏野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働き掛けることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、自分の野菜へ親しみをもち、大切にすることをねらいとしている。

夏野菜の栽培活動を通して、植物を育てることの喜びや野菜を育てることができる自分自身の成長を感じ、これからの生活の中で、身近な自然に自ら働き掛けたり、植物を育てたりすることができるようになることを考える。

(2) 子供の実態

本学級の子供は、これまでにアサガオやチューリップなどの草花を栽培する活動に取り組み、花が咲くことの喜びを味わったり花びらを使って色水遊びなどを楽しんだりしている。そして、春の校内探検では、ビワやソラマメなどの食べられる植物に興味を示すとともに、自ら植物の匂いを嗅ぎながら観察するなど身近な自然を楽しむ様子も見られる。また、自宅や祖父母宅、幼稚園・保育園で野菜を育てた経験がある子供が半数程度いる一方で、半数の子供たちは野菜の栽培経験がないことから、日常生活の中で動植物と触れ合う機会が少なくなっていることが分かる。さらに、一人で買い物をした経験をもつ子供が半数以下であり、身近な人々や社会に自ら関わる経験が少ないとも捉えることができる。

そこで、自分の野菜の日々の世話や観察などの体験活動を繰り返し設定し、野菜に直接働き掛ける学習活動を取り入れる。そうすることで、思いや願いをもち続けながら、繰り返し対象に関わり続けることができるように考える。

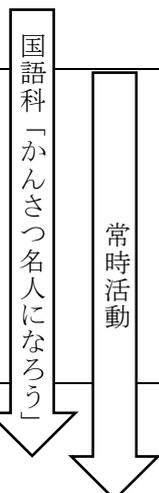
(3) 指導上の留意点

本単元では、自分で選んだ夏野菜を栽培する活動を通して、自分の野菜の成長や変化、実りに気付いたり、自分の野菜に心を寄せ、野菜の立場で世話の仕方を考えたり、自分の野菜に愛着をもって繰り返し関わろうとしたりする子供の姿を目指している。

そこで、「であう・みつける」過程では、育ててみたい野菜の中から、野菜や苗の実物、本や図鑑の情報、授業参観に来ている家族の思いを基に自分が育てる野菜を選ぶようにする。さらに、自分で代金を支払って苗を購入する活動を設定することで、自分の野菜に愛着をもって関わることができるようにする。「かかわる」過程では、自分の鉢に苗を植え、世話や観察を行い、野菜日記として観察記録を繰り返していく。ここでは、国語科「ていねいにかんさつして、きろくしよう『かんさつ名人になろう』」の学習と関連させながら、見たり、触ったり、匂いを嗅いだりする丁寧な観察を促すようにす。また、世話や観察などの体験活動と友達や自分の野菜、野菜名人との交流活動を繰り返すことで、それぞれの気づきを関連付けて考えることができ、次回の世話や観察に工夫が加わったり、日常的な関わりに変化が生まれたりすることにつながるようにする。そして、観察や世話の時間には、野菜名人として学校主事の先生にも参加してもらうことで、困った時に自ら質問することができるようにする。「つたえあう・つなげる」過程では、夏野菜の栽培活動を振り返って、手紙を書く活動を設定する。また、単元の導入で活用した種や本、図鑑などを繰り返し活用しながら、冬野菜の栽培についての意欲を高めることができるようにする。

5 指導計画（総時数 12 時間＋常時活動、国語科「かんさつ名人になろう」）

過程	主な学習活動	時間
みであう・みつける	1 野菜、野菜の苗、本や家族の思いを基に、育てる夏野菜を決める。	1
	2 夏野菜を育てるために必要な準備を話し合う。	1
	3 選んだ野菜の苗を買い、自分の苗を観察したり、自分の野菜に名前を付けたりする。	1
かかわる	4 自分の野菜の苗を植える。	1
	5 夏野菜の観察をして、野菜日記に記録する。	1
	6 夏野菜の観察をして、野菜日記に記録したことを基に、自分の野菜の様子を友達と伝え合い交流する。	1 (本時)
	7 夏野菜の観察をして、野菜日記に記録したことを基に、自分の野菜の様子を友達と伝え合い交流しながら、世話の工夫を考える。	3
	8 夏野菜を収穫する。	2
つたえあう・つなげる	9 夏野菜を育てたり、収穫したり、食べたりして気付いたことを振り返る。	1



6 本時（6 / 12）

(1) 目標

野菜の観察や野菜日記を基にした野菜会議を通して、野菜の成長の様子や自分自身の世話の仕方を振り返り、自分の野菜の様子に合わせて繰り返し関わろうとすることができるようにする。

(2) 評価規準

野菜の成長の様子を他の野菜の特徴や以前の様子と比べながら振り返り、自分の野菜の特徴や様子に応じて世話したり関わったりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

「であう・みつける」過程では、前時までの学習を振り返り、これまでに気付いたことやできるようになった世話について確認することで、自信や手応えを感じながら本時の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。その際、大きさ、色、匂いなどの観察の視点を活用しながら意味付けたり価値付けたりすることで、繰り返し観察の視点に着目することができるようにする。

「かかわる」過程では、気付いたことや困っていることを友達と伝え合い交流する野菜会議を行う。その際、同じ野菜を育てる子供同士で比べたり、他の野菜の様子と比べたりすることで、自分の野菜の様子から生まれた気付きを自覚化したり、関連付けて考えたりすることができるようにする。また、野菜会議の途中で、観察や調べ活動、世話ができる体験活動の時間を設定することで、体験活動と表現活動を繰り返しながら、気付きの質を高めることができるようにする。

「つたえあう・つなげる」過程では、本時の学習を振り返って、新たな思いや願い、新たな気付きを記入し、伝え合う活動を行う。その際、理由を問い返したり、称賛や励ましの言葉掛けをしたりすることで、満足感や成就感などの手応えを感じることができるようにする。

(4) 本時の展開 [] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
であう・みつける	5	1 前時までの学習を振り返る。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉っぱが増えていたよ。 ・ 先週よりも背が伸びていたよ。 ・ 野菜に「元気に育ってね。」と声を掛けたよ。) 2 本時のめあてをつかむ。 大きな みを そだてるには、どうすればよいのか、やさいかいぎをしよう。	○ 活動の様子の写真を提示したり、観察カードを確認することを促したりすることで、観察した野菜の様子を思い出すことができるようにする。 ○ 二つのミニトマトを提示し、比較することで、どうして高さや実の大きさが違うのかという疑問や大きな実を育てたいという思いや願いをもちながら本時の学習に取り組むことができるようにする。
かかわる	30	3 野菜会議をする。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉っぱに大きな穴があったよ。 ・ キュウリのまきひげが増えたよ。 ・ どうすれば大きな実がなるのかな。水をかければよいのかな。 ・ オクラにはつぼみがあるから、大きなつぼみがあればよいのかな。) 4 野菜の観察や野菜調べをする。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな実ができる秘密を先生に聞いてみよう。 ・ 本には、わきめをとるとよいつて書いてあったよ。 ・ ぼくは、自分のエダマメに「たくさん実をつけてね。」と声掛けをしよう。) 5 野菜会議の続きをする。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニトマトは、わきめをつむと病気になりにくいんだって。 ・ キュウリは下から五つ目の葉っぱの横のわきめまでは、つむとよいつと教えてもらったよ。 ・ 野菜にも肥料がいるって調べたけれど、いつ肥料をあげたらいいのかな。)	○ 全員で伝え合い交流する活動を行うことで、他の野菜と比較しながら自分の野菜の成長やそれに合う世話の仕方を考えることができるようにする。 ○ 伝え合い交流する活動の途中で、本や図鑑での調べ活動や野菜の観察などの体験活動ができる時間を設定することで、子供の思いや願いに沿った活動につなげることができるようにする。 ○ 本や図鑑、声掛けカードのコーナーを設定することで、自分なりの方法で活動を行うことができるようにする。 ○ 体験活動の後、もう一度野菜会議(表現活動)を行うことで、調べたことや教えてもらったことを共有し、気付きの質を高めることができるようにする。 ※ 野菜の成長の様子を他の野菜の特徴や以前の様子と比べながら振り返り、自分の野菜の特徴や様子に応じて世話したり関わったりしようとしている。
つたえあう・つなげる	10	6 本時の学習を振り返り、これからの野菜の世話について考え、伝え合う。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ わきめが出ていないかチェックして忘れずにわきめつみをするよ。 ・ どんどん大きくなってほしいから、ぼくの野菜を毎朝見に行こう。 ・ 次は、いつ肥料をあげるのかを調べよう。また先生に聞きに行こうかな。)	○ 本時の学習を振り返り、ワークシートに一言で考えを記入することで、自分の思いや願いを言語化し、気付きを自覚したり次の活動への意欲を高めたりすることができるようにする。 ○ 本時の学びや子供の考えを意味付けたり価値付けたりする言葉掛けを行うことで、自分自身の成長への手応えを感じることができるようにする。